

October 29, 2020

【前日の為替概況】ユーロドル、3日続落 欧州各国でロックダウン再導入の動きに

28日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは3日続落。終値は1.1746ドルと前営業日NY終値(1.1796ドル)と比べて0.0050ドル程度のユーロ安水準だった。新型コロナウイルスの感染が再拡大し、欧州各国でロックダウン(都市封鎖)を再び導入する動きが広がり、ユーロ売りが先行した。独株価指数が4%超下落するなど欧州株相場が軟調に推移したこともリスクオフのドル買いを促し、22時前に一時1.1718ドルと19日以来の安値を付けた。ドイツでは11月2日から1カ月間、緊急の部分的ロックダウン実施が決まったほか、フランスでも30日から少なくとも12月1日までロックダウンが実施される。ただ、事前にメディア報道などで伝わっていたこともあって、正式決定後は目立った反応が見られなかった。NY午後1.1760ドル付近まで下げ渋ったあとは1.17ドル台半ばでのみ合いに終始した。明日の欧州中央銀行(ECB)定例理事会を控えて動きづらい面もあったようだ。なお、市場では「ECBが明日の理事会で予防的に金融緩和策を講じる」とのサプライズ緩和観測が浮上している。

ドル円は小幅続落。終値は104.32円と前営業日NY終値(104.42円)と比べて10銭程度のドル安水準だった。20時過ぎに一時104.11円と9月21日以来の安値を付けた影響が残ったものの、同日の安値104.00円がサポートとして意識されると買い戻しが入り104.45円付近まで下げ渋った。市場では「104.00円付近には本邦長期資金の買い意欲が強い」との声も聞かれた。

NY勢本格参入後は104.30円を挟んだみ合いに終始。米大統領選を来週に控えてやや動きづらい面もあったようだ。ユーロ円は3日続落。終値は122.54円と前営業日NY終値(123.16円)と比べて62銭程度のユーロ安水準。20時過ぎに一時122.19円と7月20日以来約3カ月ぶりの安値を付けた影響が残り3日続落となったものの、NY市場ではドル円と同様に目立った方向感が出なかった。

カナダドルは軟調。WTI原油先物価格が一時6%超下落したことで、産油国通貨とされるカナダドルに売りが出た。欧米株価の大幅下落もドル買い・カナダドル、円買い・カナダドル売りを促し、対米ドルでは一時1.3334カナダドル、対円では78.23円まで値を下げた。カナダ銀行(BOC)はこの日、政策金利を0.25%のまま据え置くことを決めたと発表。市場の予想通りとなった。声明では「現行の低金利が2023年まで続く」との見通しを示したほか、「新型コロナのパンデミックに伴う経済危機からの回復は予想以上だったが、感染第2波が短期的により顕著な鈍化を引き起こす可能性がある」と警告した。

【本日の東京為替見通し】リスクオフ地合い変わらず、月末特殊要因には要警戒

本日の為替市場もリスクオフの流れは変わらないか。欧米の新型コロナウイルス感染第2波は深刻さが増している。欧州は経済の停滞を避けたいものの、ロックダウンに舵を切った。一方、米国はトランプ米大統領が「感染者数の増加は検査数が増えているから」「感染者の増加はメディアのフェイクニュース」と述べているように、国全体としてロックダウンなどを行う予定はない。ただし、前日の死者数が985人に上り、13州で入院患者数が最大になるなど、米国の感染第2波も猛威を振るっている。このような状況下であるために、地方自治体の一部では自主的な規制を進めていることで、米国経済にも徐々に悪影響を与えてくるだろう。

市場のリスクオフ・センチメントは変わらないが、ドル円は昨日の値動きを見てもドル買い・円買いの影響を同時に受けているため値動きは狭められそう。また104.00円や104.50円などの現在近い水準に、今日や明日に大きめのオプションカットがあることも値動きを限らせることになるだろう。また、月末に近付き特殊玉が出やすい環境で、株価が軟調に推移している地合いでも逆方向に動くことにも注意したい。特にこの2日間は月末のロンドンフィックスに向けても神経質な動きになりそう。

欧州通貨はドル円と比較して、リスクオフのドル買いに素直に反応しやすくなっている。ただし、上記のように月末は特殊玉が出やすい。ここ最近の月末のロンドンフィックスはポンドを中心にドルが売られることが多い傾向にある。米大統領選挙がいよいよ近づいてきているが、7420万票(郵便投票4980万、事前投票2430万)がすでに投じられている。バイデン候補の優位は変わらないが、直前までトランプ氏の動向には引き続き警戒したい。

本日は日銀金融政策決定会合後に政策金利と経済と物価情勢と展望が発表される。しかし、その後の黒田日銀総裁の会見を含め、市場の注目度は非常に低い。経済指標では米国入り後に発表される7-9月期米国内総生産(GDP)速報値には注目が集まりそう。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）
- 08:50 ◇ 9月商業販売統計速報（小売業販売額、予想：前年比▲7.7%）
- 未定 ☆ 日銀金融政策決定会合（終了後、決定内容発表、予想：当座預金金利▲0.10%で据え置き）
- 未定 ◎ 経済・物価情勢の展望（10月、基本的見解）
- 14:00 ◇ 10月消費動向調査（消費者態度指数 一般世帯、予想：35.0）
- 15:30 ☆ 黒田東彦日銀総裁、定例記者会見

<海外>

- 07:00 ◎ カプラン米ダラス連銀総裁、パネルディスカッションに参加
- 09:30 ◇ 7-9月期豪輸入物価指数（予想：前期比▲2.0%）
- 15:00 ◇ 9月南アフリカマネーサプライ M3（予想：前年比 10.95%）
- 17:55 ◎ 10月独雇用統計（予想：失業率 6.3%/失業者数変化▲5000人）
- 18:30 ◇ 9月南アフリカ卸売物価指数（PPI、予想：前月比 0.3%/前年比 2.5%）
- 18:30 ◇ 9月英消費者信用残高（予想：7億ポンド）
- 18:30 ◇ 9月英マネーサプライ M4
- 19:00 ◎ 10月ユーロ圏消費者信頼感指数（確定値、予想：▲15.5）
- 19:00 ◎ 10月ユーロ圏経済信頼感指数（予想：89.5）
- 21:30 ◇ 9月カナダ住宅建設許可件数
- 21:30 ☆ 7-9月期米国内総生産（GDP）速報値（予想：前期比年率 31.0%）
 - ◎ 個人消費（速報値、予想：前期比 38.9%）
 - ◎ コア PCE（速報値、予想：前期比 4.0%）
- 21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数/失業保険継続受給者数（予想：77.5万件/770.0万人）
- 21:45 ☆ 欧州中央銀行（ECB）定例理事会、終了後政策金利発表（予想：0.00%に据え置き）
- 22:00 ◎ 10月独消費者物価指数（CPI）速報値（予想：前月比横ばい/前年比▲0.3%）
- 22:30 ☆ ラガルド ECB 総裁、定例記者会見
- 23:00 ◎ 9月米住宅販売保留指数（仮契約住宅販売指数、予想：前月比 3.4%/前年比なし）
- 30日 01:00 ◎ ビルロワ・フランス中銀総裁、講演
- 30日 02:00 ◎ 米財務省、7年債入札
- トルコ（共和国宣言記念日）、休場

30日

<国内>

- 08:30 ◎ 10月東京都区部消費者物価指数（CPI、生鮮食料品除く総合）
- 08:30 ◎ 9月完全失業率
- 08:30 ◎ 9月有効求人倍率
- 08:50 ◎ 9月鉱工業生産速報

<海外>

- 09:30 ◎ 7-9月期豪 PPI

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

28日 10:57 ハーパー豪準備銀行(RBA)委員
「QE(量的緩和)は選択肢であり、豪ドルを抑制するだろう」

28日 23:00 カナダ銀行(BOC、カナダ中央銀行)声明
「経済が回復するにつれて、大規模金融政策の支援が引き続き必要」
「2%インフレ目標の持続的達成のため政策金利を下限で維持」
「現時点の予測では、政策金利維持は2023年まで継続」
「QEプログラムを継続し、上記のように再調整する」
「回復を支援しインフレ目標を達成するために、必要に応じて追加の金融政策の用意がある」
「QEプログラムを再調整し、家計や企業にとって最も重要な借入金利に直接的な影響を与える長期債の購入にシフト」
「国債買入れプログラムを少なくとも週40億カナダドルのペースに減額」
「世界経済とカナダ経済は7月の金融政策報告のシナリオに沿って大きく進んでおり、経済が再開するにつれて急速に拡大した」
「今後新型コロナウイルス拡大は、多くの国の経済見通しを圧迫する可能性があり、成長は引き続き政策支援に大きく依存する」
「雇用とGDPの回復は予想よりも強かった」
「経済は現在、より穏やかな回復段階に移行」
「新型コロナパンデミックの経済的影響はセクター間で非常に不均一であり、特に低所得労働者に影響を及ぼしている」
「9月CPIインフレ率は0.5%だったが、主にエネルギー価格の低迷による」
「2021年初頭まで目標バンドである1-3%を下回ると予想」

28日 23:53 ドイツ外務省
「トルコの一部地域としていた渡航警告を11月9日からトルコ全体まで拡大」

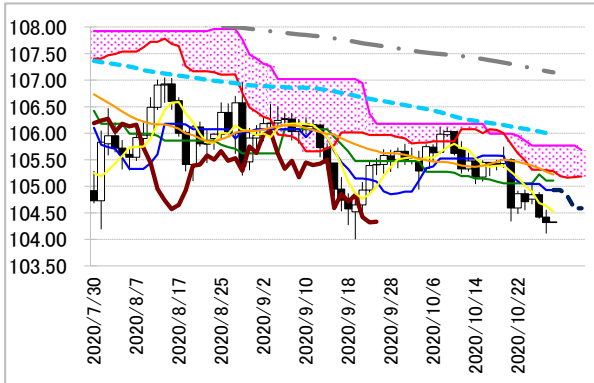
29日 00:15 マックレム BOC 総裁
「第4四半期はわずかながらもプラス成長を予想」
「景気の完全な回復にはかなりの時間がかかり、経済下支えのために金融刺激策を継続」
「長期債の購入はより効果的」
「原油安のわりにはカナダドルは堅調だった」
「リスクはだいたいバランスが取れているとの予測だが、下振れリスクには焦点を当てる」

29日 04:09 ペロシ米下院議長
「経済対策巡る作業を止めていない」
「上手くいけばトランプ米大統領は経済対策巡る交渉に戻ってくる」
「トランプ米大統領は株式市場をとっても心配している」

29日 04:15 マクロン仏大統領
「30日から全国規模でロックダウン(都市封鎖)措置を実施する」

29日 04:52 米国立アレルギー感染症研究所のファウチ所長
「ワクチンは早くても来年1月まで利用できないだろう」
※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

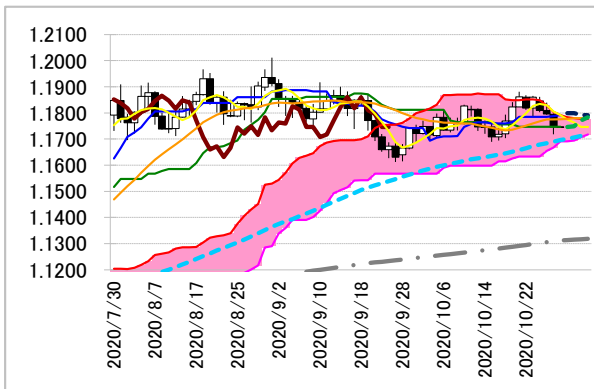


<ドル円=104円割れリスクくすぶったまま>

下影小陰線引け。21日安値 104.34円を抜けて下落が加速した。

104.11円を目先の底に下げ渋り、同水準付近の底堅さを示唆する下ひげを形成している。しかし、すう勢を示す5日移動平均線の低下角度や、今後に予想される一目均衡表・転換線の低下などからすれば、9月21日安値 104.00円の突破をうかがうリスクはくすぶったままだ。

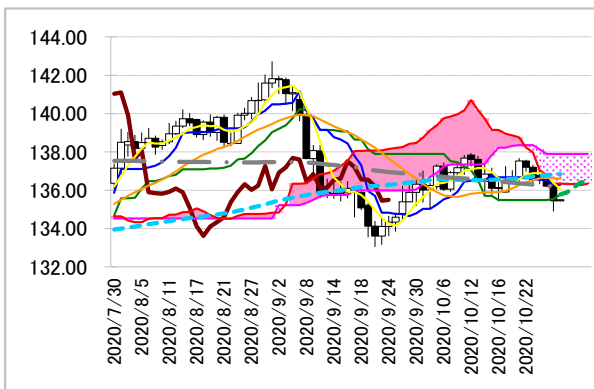
レジスタンス 1	104.93(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	104.32
サポート 1	103.88(ピボット・サポート 2)
サポート 2	103.09(3/12 安値)



<ユーロドル=テクニカルが示唆する戻り歩調をたどれるか>

下影陰線引け。一目均衡表・転換線付近での下げ渋りが期待されたが同線から下放れ、19日以来の安値 1.1718ドルまで下値を広げた。次のサポートとなる一目・基準線 1.1747ドルも下回ったが、同線近辺へ戻して NY を引けている。基準線は上昇傾向を維持しており、転換線もじり高の流れにある。ファンダメンタルズは弱い、テクニカル面からすれば両線の動向が示唆する戻り歩調をたどり、一目・雲の上限を試す可能性が見て取れる。

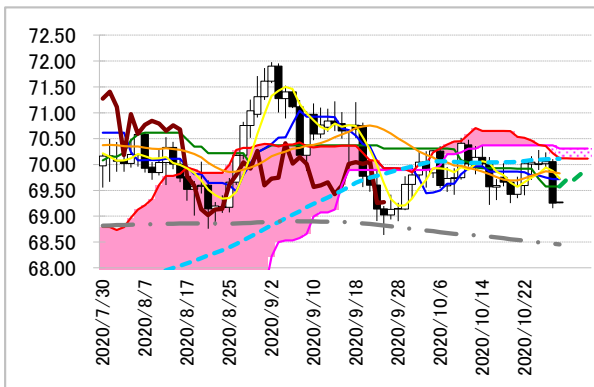
レジスタンス 1	1.1791(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	1.1746
サポート 1	1.1696(90日移動平均線)



<ポンド円=基準線の上昇を背景に反発力を示す可能性も>

下影陰線引け。一時 134.89円と9月28日以来、1カ月ぶりの135円割れとなった。一目均衡表・基準線が小幅に水準を切り上げるなかでも下振れる結果となったが、同線は本日 135.77円へさらに上昇。基準線へ追従して、昨日に長めの下ひげをつけて下げ渋った流れを強め、基準線を回復するような反発力を示せるか見定めたい。

レジスタンス 1	136.05(5日移動平均線)
前日終値	135.45
サポート 1	134.89(10/28 安値)



<NZドル円=昨日安値付近の底堅さ後ろ盾とした戻り期待>

大陰線引け。70円台から9月29日以来の安値 69.15円まで急落した。しかし、目先の下値めどだった20日安値 69.25円や15日安値 69.22円が位置するレンジを下回ったものの、さらなる下落加速とはなっていない。これらの安値と昨日安値が、目先の下げ渋りレンジを形成する価格群として受け止めることになるか。この水準の底堅さを後ろ盾に、明日にも横ばいから上昇へ転じる一目均衡表・基準線へ追従した戻りを試す展開が期待できる。

レジスタンス 1	69.72(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	69.26
サポート 1	68.90(9/28 安値、ピボット・サポート 1)

